

(子どもの人間関係づくり推進事業費)

平成 24 年度
中 1 ギャップ問題未然防止事業

—報告書—

Ladder

平成 25 年 3 月
北海道教育委員会

「発刊に寄せて」

本道においては、小学校6年生が中学校1年生に進学した際、不登校の子どもが約3倍に増加するとともに、いじめの認知件数についても約2倍となるなど、いわゆる「中1ギャップ」の問題が全国と同様に顕在化しており、生徒指導上の喫緊な課題となっております。

こうしたことから、北海道教育委員会では、平成22年度から、「子どもたちの人間関係づくり推進事業」の一環として、「中1ギャップ問題未然防止事業」に取り組み、本年度は、昨年度から継続して実施する4中学校区に、新たに5中学校区を加えた9つの中学校区を指定し、事業を進めてまいりました。

各指定校区においては、昨年度の実践から明らかになった中1ギャップを解消するポイントである「小・中学校の緊密な連携体制の確立」、「教育課程を通じての人間関係づくりの能力（社会的スキル）の育成」、「児童生徒の内面へのきめ細かな対応」の3つの視点から、「中1ギャップ解消プラン」を作成し、地域の実態に応じた特色ある取組を実践してきたところです。

本報告書では、道内の小・中学校が小中連携を進める際の参考となるよう、モデル校の実践をはじめ、その成果や効果的な取組とするためのポイントを具体的に掲載しており、今後、本報告書が、道内の各地域で積極的に活用され、いじめや不登校等の問題行動等の未然防止に向けた取組が一層推進されることを期待しております。

結びに、本調査研究にお力添えをいただきました北海道医療大学の富家直明教授をはじめ、指定校の9中学校区の小・中学校の皆様に対して深く感謝申し上げます。

平成25年3月

北海道教育庁学校教育局参事（生徒指導・学校安全）

新 納 隆 司

目 次

第 1 章 解説編

- 北海道における「中 1 ギャップ」の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 平成 24 年度「中 1 ギャップ問題未然防止事業」・・・・・・・・・・・・ 2
- 「中 1 ギャップ」を解消するポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第 2 章 実践編 ー指定校における取組ー

I 指定中学校区の「中 1 ギャップ解消プラン」

- 夕張市立夕張中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・・・・・ 4
- 当別町立当別中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・・・・・ 8
- 七飯町立大中山中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・ 12
- 江差町立江差北中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・ 16
- 東神楽町立東神楽中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・ 20
- 網走津市立第二中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・ 24
- 標津町立標津中学校区・川北中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・ 28
- 別海町立別海中央中学校区における「中 1 ギャップ解消プラン」・・・・ 32

II 中 1 ギャップを解消するポイントに基づく実践例

1 小・中学校の緊密な連携体制の整備

① 推進体制の確立

- コーディネーターを中心とした機能的な組織体制の確立の取組・・・・・・・・ 36
(江差町立江差北小・中学校)
- 既存組織との連携を図った体制整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
(東神楽町立東神楽中学校)
- 既存の組織を活用し、学校間のスムーズな連携を図る取組・・・・・・・・ 38
(別海町立別海中央小学校・別海中央中学校)

② 教員間の交流

- 望ましい人間関係づくりを目指した取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
(夕張市立ゆうばり小学校・夕張中学校)
- 小中交流会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
(当別町立当別小学校・当別中学校)
- 合同打合せ、授業交流の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
(七飯町立大中山小学校・大中山中学校)
- 小中合同研修会の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
(東神楽町立東神楽中学校)
- 町の研究所を活用した小中交流の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
(標津町立標津小学校・標津中学校、標津町立川北小学校・川北中学校)

③ 引継ぎの工夫

- 引継ぎシートを工夫した取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
(夕張市立夕張中学校)

○	生活アンケートを活用した引継ぎ	45
	(網走市立第二中学校)	
○	子ども理解支援ツール「ほっと」の取組	46
	(別海町立別海中央小学校・別海中央中学校)	
④	出前授業の工夫	
○	相互乗り入れ授業の工夫	47
	(江差町立江差北小・中学校)	
○	共通指導事項を明確化した取組	48
	(標津町立標津小学校・標津中学校、標津町立川北小学校・川北中学校)	
○	チームによるTTの充実	49
	(別海町立別海中央中学校)	
2	児童生徒の人間関係を築く力の育成	
①	人間関係を築く力を育成する教育活動の工夫	
○	コミュニケーションスキルの向上を目指した取組	50
	(当別町立当別小学校)	
○	予防的・開発的な教育相談を取り入れた取組	51
	(七飯町立大中山中学校)	
○	ソーシャルスキルの育成に関わる学習の取組	52
	(江差町立江差北小・中学校)	
②	児童生徒の交流活動の工夫	
○	児童会・生徒会の交流の取組	53
	(夕張市立夕張中学校)	
○	児童会と生徒会の交流	54
	(当別町立当別小学校・当別中学校)	
○	新入生交流会の取組	55
	(網走市立第二中学校)	
3	児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援	
①	生活アンケートの活用	
○	「ほっと」を活用した取組	56
	(七飯町立大中山小学校・大中山中学校)	
○	小・中合同の分析、学習会の実施	57
	(東神楽町立東神楽中学校)	
○	「Q-U」「ほっと」を活用した児童生徒理解と学級適応支援の取組	58
	(網走市立第二中学校)	
○	アセスを活用した人間関係づくりの取組	59
	(標津町立標津小学校・標津中学校、標津町立川北小学校・川北中学校)	

第3章 検証編

○	指定校区におけるいじめ・不登校の状況	60
○	平成24年度における本事業の成果と課題	61

資料

	平成24年度「中1ギャップ問題未然防止事業」実施要項	62
--	----------------------------	----

第1章

解説編

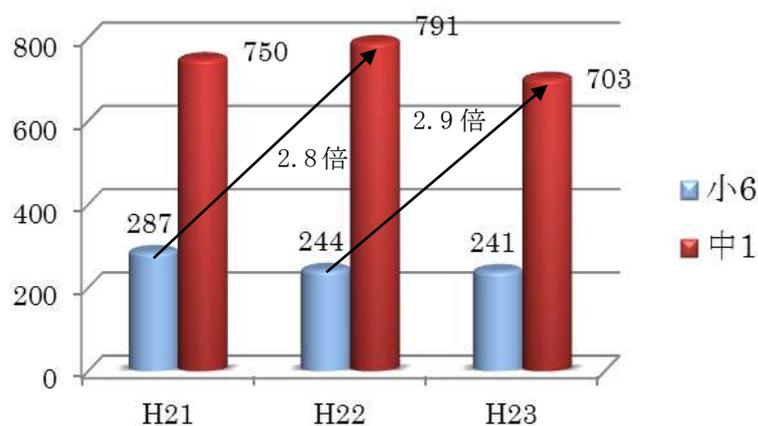
第1章では、北海道における「中1ギャップ問題」の現状と、その解消に向けて、北海道教育委員会が平成22年度から実施している「中1ギャップ問題未然防止事業」の取組を紹介します。

北海道における「中1ギャップ」の現状

北海道では、中学校1年生において、小学校6年生に比べて不登校やいじめが大きく増える現象、いわゆる「中1ギャップ」問題が続いています。

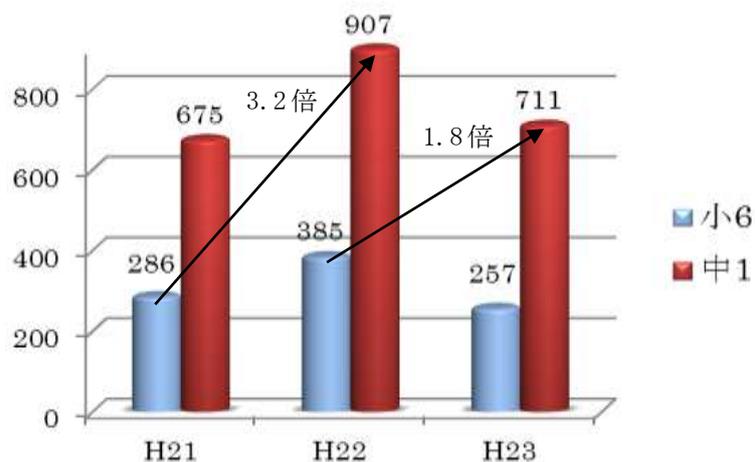
この問題の要因としては、一人一人を細やかに見守る環境の中で生活していた子どもが、中学校に入学して、自分の責任で判断し行動することを求められるなど、小学校と中学校の学校制度や教員の指導のギャップにより、新しい学習環境や人間関係につまずいて、学校生活への不適応を起こしていることなどが指摘されています。

図1 本道における小6と中1の不登校児童生徒数



文部科学省が毎年実施している「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、北海道の不登校児童生徒数は、平成21年度の小学校6年生が287人であったのに対し、平成22年度の中学校1年生が791人と約2.8倍に、平成22年度の小学校6年生が244人であったのに対し、平成23年度の中学校1年生は703人と約2.9倍に、増加しています。(図1)

図2 本道における小6と中1のいじめの認知件数



同様に、北海道のいじめの認知件数は、平成21年度の小学校6年生が286件であったのに対し、平成22年度の中学校1年生が907件と約3.2倍に、平成22年度の小学校6年生が385件であったのに対し、平成23年度の中学校1年生は711件と約1.8倍に、増加しています。(図2)

平成 24 年度「中 1 ギャップ」問題未然防止事業

北海道教育委員会では、「中 1 ギャップ」問題の解消を目指して、平成 22 年度から「中 1 ギャップ問題未然防止事業」を実施し、平成 24 年度は道内の 9 中学校区において、学校や地域の実情に応じた取組を進めています。

平成 24 年度「中 1 ギャップ」問題未然防止事業実施の 9 中学校区

◎当別町立当別中学校
○当別町立当別小学校

◎江差町立江差北中学校
○江差町立江差北小学校

◎七飯町立大中山中学校
○七飯町立大中山小学校

◎夕張市立夕張中学校
○夕張市立ゆうばり小学校

◎東神楽町立東神楽中学校
○東神楽町立東神楽小学校
○東神楽町立東聖小学校
○東神楽町立忠栄小学校
○東神楽町立志比内小学校

◎網走市立第二中学校
○網走市立中央小学校
○網走市立西小学校

◎標津町立標津中学校
○標津町立標津小学校
◎標津町立川北中学校
○標津町立川北小学校

◎別海町立別海中央中学校
○別海町立別海中央小学校

◆ 事業実施市町村教育委員会、拠点校・連携校の取組 ◆

- 1 中 1 ギャップ解消プランの作成
- 2 小・中学校の緊密な連携体制の整備
 - ① 「中 1 ギャップ検討委員会」の設置
 - ② 教員間の交流（合同研修会、相互の授業参観、部会別協議等）
 - ③ 小・中学校の引継ぎの工夫
 - ④ 出前授業
- 3 児童生徒の人間関係を築く力の育成
 - ① 好ましい人間関係を築く力を育成する教育活動の工夫（構成的グループエンカウンター、ピアサポート等）
 - ② 児童生徒の交流活動の工夫
- 4 児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援
 - ① 生活アンケート（子ども理解支援ツール「ほっと」等）の実施と活用
- 5 事業成果の普及啓発

「中1ギャップ」を解消するポイント

平成 22 年度から各指定校区において、先行研究を参考にして実践研究を進め、「中1ギャップ」を解消するための3つのポイントを整理しました。

ポイント1

「小・中学校の緊密な連携体制の整備」

- 中学校区を単位として、「中1ギャップ解消検討委員会（仮称）」などの小学校と中学校が連携した組織を立ち上げること。
- 「中1ギャップ解消検討委員会（仮称）」などで、小・中学校の児童生徒、教職員同士、保護者同士の交流活動を企画・立案、実施すること。
- 9年間を通じて子どもを育てる視点から、小学校と中学校の引継ぎや情報交換を工夫すること。 など

ポイント2

「児童生徒の人間関係を築く力の育成」

- 小学校の段階から、社会的スキルなどの人間関係を築く力を意図的・計画的に育成すること（特別活動の充実）
- 児童生徒が「自己有用感」や「達成感」を獲得できる教育活動を工夫すること。
- グループエンカウンターやピア・サポート活動、ソーシャルスキルトレーニングなどを効果的に活用すること。 など

ポイント3

「児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援」

- 学校への適応状況等を早期に発見し、適切な支援を行うための「生活アンケート」を活用すること。（「ほっと」、アセス、Q-Uなど）
- 教師間の観察や客観的なデータを活用した校内研修等を工夫すること。 など

第2章

実践編

—指定校における取組—

第2章では、平成24年度「中1ギャップ問題未然防止事業」に取り組んだ全道の9中学校区における中1ギャップ解消に向けた具体的な取組を紹介します。

I 指定中学校区の

「中1ギャップ解消プラン」

夕張市立夕張中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 夕張市立夕張中学校 (生徒数176名)
連携小学校名 夕張市立ゆうばり小学校 (児童数251名)

本プランの特徴

- 児童一人一人が抱えている中学校生活への不安をアンケートにより把握しています。
- 児童生徒の交流活動、合同学習、教職員の出前授業等を通して、人間関係づくりの能力(社会的スキル)を育成しています。

1 中学校区の特徴

夕張市は、かつては炭鉱で栄えた都市であるが、昭和40年代以降の相次ぐ炭鉱の閉山により過疎化が進んできた。特に、財政再建団体となった平成18年度以降、各地域における人口の減少に伴い、児童生徒数も減少が続いたことから、平成22年度、市内の中学校3校を1校に、平成23年度に市内の小学校6校を1校に再編した。学校再編後は、校区が広域になり、今年度は全児童生徒の7割近い約280名が路線バス等で通学している。

2 中学校区の課題

本市の児童生徒の大半は、幼少期から顔見知りであり、男女の仲も比較的よい一方、友人関係が固定化しやすい傾向があり、次の3点が課題である。

- (1) 児童一人一人が抱えている中学校生活への不安
- (2) 他者とのかかわり方が苦手であることなどのコミュニケーション能力の不足
- (3) 集団において人間関係をつくる能力の不足

また、平成23年度に市内の小学校6校を1校に再編したことから、中1ギャップの問題に加え、規模の異なる学校の統合による「学校再編ギャップ」が懸念された。

そのため、市内6小学校の第1学年から第5学年の児童による合同の体験学習や、小学校第6学年の児童による体験入学を実施するなどして、人間関係づくりの不安を解消するように努めてきた。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- ・市内の全ての小学校第6学年による合同の体験学習
- ・小学校第6学年を対象とした中学校教諭による出前授業
- ・小・中学校の綿密な引継ぎ

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
ゆうばり小学校	校長	夕張中学校	教諭 (1年担任)
ゆうばり小学校	教頭	夕張市教育委員会	教育長
ゆうばり小学校	教諭 (6年担任)	夕張市教育委員会	教育課長
夕張中学校	校長	夕張市教育委員会	主幹
夕張中学校	教頭	夕張市教育委員会	教育アドバイザー
夕張中学校	教諭 (生徒指導)	北海道教育庁空知教育局	指導主事

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	夕張中学校	ゆうばり小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生ガイダンス（各学級・学年）の実施 ・新入生歓迎会の実施 ・全校集会（毎月実施） ・生活実態調査 ・学級集団づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 ・縦割り班づくり ・1年生を迎える会の実施 ・全校朝会（毎月実施） ・補導連絡会（毎月実施） ・なやみ相談箱の設置（児童会主催）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 ・学級経営交流会の実施 ・生徒指導交流会の実施 ・教育相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の実施 ・学級経営交流会の実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施 ・スポーツ大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導交流会の実施 ・教育相談の実施
「中1ギャップ問題未然防止事業」第1回検討委員会		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導交流会の実施 ・各学級における構成的グループ・エンカウンターの実施 ・歌声集会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童集会（かくれんぼ大会）の実施 ・縄跳び集会
「ほっと」を活用したアンケートの実施（小学校全学年）		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動の実施 ・ワクワクプロジェクトの実施 ・幼稚園との交流会の開催 ・生活実態調査の実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭・合唱交流会の開催 ・生徒会役員選挙 ・教育相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童集会（児童会主催のドッジボール大会）の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高の連携による音楽発表会の実施 ・グループ討議等を取り入れた授業研究 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ＊グループ活動等による体験的な学習や話し合い活動を取り入れた授業を公開し、教職員で授業交流を図る。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高の連携による音楽発表会の実施

	学校職員・保護者を対象とした研修会の実施	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談カードによるアンケートの実施 ・グループ討議等を取り入れた授業研究及び授業研究に関する討議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班給食 ・幼稚園との交流会の開催 ・縄跳び集会
12月	小学校第6学年を対象としたスクールカウンセラーによる講話の実施	
	高学年の児童をもつ保護者を対象としたスクールカウンセラーによる講話の実施	
	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会、生徒集会の開催（生徒会企画） ・生徒指導交流会の実施 ・教育相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施 ・生徒指導交流会の実施 ・縦割り班給食 ・児童アンケートの実施
	「ほっと」を活用したアンケートの実施（小学校全学年）	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの考察、改善点の策定 ・学級経営交流会の実施 ・全校鬼ごっこ
	小・中・高等学校の児童生徒を対象にした仲間づくり「子ども会議」の実施	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施 ・生徒指導交流会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施 ・生徒指導交流会の実施
	小学校第6学年児童を対象にした中学校教諭による出前授業（外国語活動）	
	小学校第6学年を対象とした中学校体験学習の実施	
	「ほっと」を活用したアンケートの実施（小学校全学年、中学校全学年）	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を送る会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を送る会の実施 ・幼稚園との交流会の開催
	「引継ぎシート」を活用した小・中学校の引継ぎ	
	「中1ギャップ問題未然防止事業」第2回検討委員会	

6 事業の成果

- ・小学校の再編による学校生活への児童の不安等を解消するため、小学校第1学年から第5学年についても同様の取組を行ったことにより、児童は過度の不安やストレスを感じることなく、統合した小学校での生活を始めることができた。
- ・生徒指導研修会において、参加した教員が指導方法や、支援体制づくりのノウハウについて研修し、その内容を自校の教員に還元したことにより、学校全体で指導の充実に役立てることができた。
- ・PTAの研修会において、保護者から児童生徒の悩みを直接聞き、児童生徒が抱える課題について共通理解を図るとともに、対応策についての意見を出し合うことにより、子育て等についての保護者の安心感を高めることができた。
- ・小学校高学年の児童を対象に、スクールカウンセラーによる集団カウンセリングを実施したことにより、中学校に進学するに当たっての悩みや不安を、児童自らの力で解消するスキルを身に付けさせることができた。
- ・保護者向けの講話において、児童に対するカウンセリングを行ったカウンセラーを招へいしたことにより、日頃子どもが抱える悩みと保護者が抱える悩みを結び付けて問題解決を図ることができた。
- ・小学校第6学年の中学校体験学習では、現在、中学校で取り組んでいるICT（ipad）を活用した理科の授業を体験することにより、中学校入学後の授業に対する興味・関心を高めることができた。

7 今後の課題

- ・小・中学校の再編により、9年間を見通して児童生徒を育てていくという観点から、小・中学校の教員が児童生徒の育ちや変容等について常に情報交換し、連携しながら対応していく体制を整える必要がある。
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」は、児童生徒のコミュニケーション能力を総合的に判断するための有効な手段であり、小学校における児童アンケートや中学校における教育相談カードによるアンケートと併せて活用することにより、子どもたちの社会的スキルの分析結果を小・中学校間で共有し、9年間を見通して育成を図っていく必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 小学生が、中学校に進学する前に実施する中学校における体験学習や出前授業は、中学校の生活がどのようなものかを実際に体験しながら理解できる絶好の機会である。児童にとっては、入学前に中学校の先生を知ることができ、安心感につながる。また、進学先の中学校にとっては、入学してくる児童を事前に把握できる機会となる。
- 小学校における交流学習は、同じ校区にいながら触れ合うことのなかった児童同士が知り合える機会である。この交流を意図的・計画的に進めていくことにより、中学校進学後に生徒同士が互いに声をかけやすい環境づくりにつながる。
- 児童生徒の社会的スキルの育成（中1ギャップの解消）には、小・中学校間の綿密な連携や児童生徒相互の交流はもとより、保護者や地域の理解が重要であることから、学校、家庭、地域が一体となった取組を進める必要がある。

当別町立当別中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 当別町立当別中学校（生徒数324名）

連携小学校名 当別町立当別小学校（児童数503名）

本プランの特徴

- 「児童会生徒会交流会」、「合同ボランティア活動」を行っています。
- 小学校と中学校の教員が連携し、「小中交流会」や「出前授業」を行っています。
- 教職員を対象とした「コミュニケーション講座」を行っています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、北海道内の中でも有数の穀倉地帯・豪雪地帯で、札幌市・江別市・石狩市に隣接する本町の中心地に位置し、小学校が1校の構成となっている。そのため、中学校入学時に新たな友人との出会いによる人間関係づくりについての不安は少ない。

2 中学校区の課題

本中学校区の児童生徒は、人懐こく、朗らかで活力があり、学校行事などに積極的に取り組む。しかし、基本的な生活習慣や規範意識が十分に身に付いていない児童生徒もいるため、生徒指導上の問題が見られる。また、場に応じた言葉遣いや行動、苦手なことや難しいことへ粘り強く対処する姿勢、よりよい人間関係を築く力に若干の課題が見られる。

このようなことから、児童生徒の学習や生活の状況を的確に把握するとともに、小学校と中学校、家庭との連携により、主体的に学ぶ態度や基本的な生活習慣、よりよい人間関係を築く力を育てる指導を工夫する必要がある。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- コーディネーター（本事業の担当教諭）を小学校・中学校に配置
- 中学校から小学校への「出前授業」（H21年度～書写、H22年度～武道（剣道）、H23年度～数学）
- 「生徒会児童会交流会」と「合同ボランティア活動」の実施
- 「ピア・サポート講習会」の実施
- 「小中引継ぎシート（小中連携シート）」の改善

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
当別町立当別中学校	教頭	当別町立当別小学校	教頭
当別町立当別中学校	教務主任	当別町立当別小学校	教務主任
当別町立当別中学校	生徒指導主事	当別町立当別小学校	生徒指導主事
当別町立当別中学校	コーディネーター	当別町立当別小学校	コーディネーター
		当別町教育委員会	管理課長補佐
		当別町教育委員会	学校教育係長

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	当別小学校	当別中学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップの解消に向けた取組計画、確認事項の確認 ・問題行動等への対応 ・教育相談の実施計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新1年生についての生徒理解 ・情報伝達と受入体制整備 ・配慮事項の確認 ・特別な支援を必要とする生徒への指導
5月	<p>第1回 当別中学校区中1ギャップ検討委員会</p> <p>【メンバー】 当別小学校・当別中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当者</p> <p>【ねらい】 今年度の取組の方向性を確認する。</p> <p>【内 容】 (1) 1年間の「中1ギャップ解消」に向けた取組の説明及び協議を行う。 (2) 新年度になって1か月間の学校の取組や児童生徒の様子を交流する。</p>	
6月	<p>第1回 小中交流会</p> <p>【メンバー】 当別小学校・当別中学校の全教職員</p> <p>【ねらい】 中学校の教職員が小学校の学習指導等について理解を深めるとともに、円滑な接続のための方策等を協議する。</p> <p>【会 場】 当別町立当別中学校</p> <p>【内 容】 (1) 小学校の教職員が、中学校において全学年の授業を参観する。 (2) 「学力」「小中連携」「地域」「生徒指導」の4分科会に分かれ、課題と方策について協議を行う。</p>	
	<p>学校・家庭に関わる生活アンケート実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期間の学校生活、家庭生活の様子に関する生徒アンケートの実施 ○ 学校全体、学年、各分掌の反省及び2学期の目標の修正等へのアンケート結果の活用 	
7月	<p>第1回 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施</p> <p>【ねらい】 児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。</p> <p>【対 象】 当別小学校第5・6学年、当別中学校全学年 ※各学校のデータは、事業推進の資料として道教委に報告する。</p>	
8・9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当別小 研究授業：当別中より授業参観 ○ 当別小学校140周年記念バザー 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中一ギャップ問題未然防止事業」集団カウンセリング研修への参加 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>当別中学校内研修</p> <p>集団カウンセリング研修会内容還流</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当別中 学校公開日：当別小より授業参観
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい人間関係づくりへの意識啓発 ・児童会後期役員選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会生徒会交流会の事前の取組の推進 ・生徒会後期役員選挙
	<p>第2回 当別中学校区中1ギャップ検討委員会</p> <p>【メンバー】 当別小学校・当別中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当者</p> <p>【ねらい】 これまでの取組の進捗状況を確認するとともに、課題について協議する。</p> <p>【内 容】 (1) これまでの取組の反省 (2) 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果及び活用方法について (3) 今後の計画について (4) 情報交流</p>	

11月	<p style="text-align: center;">児童会生徒会交流会</p> <p>【メンバー】当別小学校児童会役員及び担当教員、当別中学校生徒会役員及び担当教員 【ねらい】児童会・生徒会相互の理解を深める。 【内 容】(1) 児童会・生徒会の取組を交流する。 (2) ボランティア活動における協力体制について協議する。 (3) いじめアンケートの結果を報告し、いじめ根絶に向けた取組を交流する。</p> <p style="text-align: center;">全校研修会（コミュニケーション）</p> <p>【ねらい】人との関わりの大切さについて自覚を深める 【対 象】当別中学校全学年 【内 容】コミュニケーションスキルの向上を目指し、演習を通して、円滑な人間関係の構築に必要な知識・技能について学ぶ。</p>
12月	<p style="text-align: center;">第2回 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施</p> <p>【ねらい】児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。 【対 象】当別小学校第5・6学年、当別中学校全学年 ※各データは、1回目と同様に、事業推進の資料として道教委に報告する。</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションスキルに関わる講演会</p> <p>【ねらい】望ましい関わりの大切さについての自覚を深める。 【対 象】当別小学校第6学年 【内 容】他者との関わり方の基本的な3パターンについて、ロールプレイを見て、振り返りを行う。</p>
1月	<p style="text-align: center;">第3回 当別中学校区中1ギャップ検討委員会</p> <p>【メンバー】当別小学校・当別中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当 【ねらい】これまでの取組の進捗状況を確認するとともに、課題について協議する。 【内 容】(1) これまでの取組の反省 (2) 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果（変容）について (3) 次年度の計画について</p>
2月	<p style="text-align: center;">入学説明会</p> <p>【ねらい】児童の中学校への不安を取り除き、中学校生活への準備を行う。 【内 容】(1) 当別小学校第6学年児童が、中学校の授業を参観する。 (2) 当別小学校第6学年児童が、中学校生活についての説明を聞く。 *学校行事（生徒会）、中学校生活の基本（教務）、学校生活のきまり（指導部）</p> <p>○ 第6学年児童の人間関係づくり ・6年生を送る会 ・卒業式に向けた学年、学級の取組 ○ 引継ぎに向けた「小中引継ぎシート（小中連携シート）」の作成</p> <p style="text-align: center;">ピア・サポート講習会</p> <p>【ねらい】生徒相互の理解を深める。 【対 象】当別中学校第1学年 【内 容】簡単な演習を通して、「ピア・サポート＝仲間に対する支援」の基本理念や他者理解、意思疎通の仕方などについて学び合う。</p>
3月	<p style="text-align: center;">中学校への引継ぎ</p> <p>【メンバー】当別小学校の教頭、第6学年担任、特別支援教育コーディネーター 当別中学校の教頭、教務主任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター 【ねらい】新入生の受け入れ体制や学級編制、指導方法について、事前に打ち合わせる。 【内 容】(1) 「小中引継ぎシート」を活用し、きめ細かく情報の引き継ぎを行う。 (2) 不登校生徒への対応やいじめの未然防止の取組について協議する。</p>

6 事業の成果

- 昨年度の反省点であった、本事業に関わる校務分掌間での業務分担が年度当初に適切に行われ、各校の中1ギャップ解消プランを円滑に推進することができた。
- 例年開催されている教職員間の「小中交流会」において、「小中連携～中1ギャップ」を課題とした分科会が設定され、指導の連続性や、共通して指導することについて共通理解を図ることができた。
- ピア・サポート講習会やコミュニケーションスキルに関わる全校研修会では、生徒から「接し方、人との関係がこんなに変わるとは思わなかった。これからは、相手の気持ちに注意して生活したい」という声が聞かれるなど、相手意識を高めることの大切さに気付かせることができた。
- 児童会と生徒会の交流を通して、小学生の中学校入学への不安解消を解消するとともに、中学生のリーダー性を育成することができた。
- 中学校においては、挨拶で明るい学校をつくることを目指し、朝の挨拶運動を行うなど、生徒の自主的な取組を進めることができた。

7 今後の課題

- これまでの取組を単に踏襲するだけではなく、時代の流れや児童生徒の変容などに合わせて取組を継続的に改善しながら推進する必要がある。
- 「小中引継ぎシート（小中連携シート）」については、今後、教務部と研究部とが連携して、有効な活用の在り方を考える必要がある。
- 本事業を通して実施してきた各講習会や出前授業がより効果的に行われるよう、開催回数、時期について、検討する必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 中1ギャップ解消プランの実行には、校内研修などによる教職員の意識改革と小中交流による教職員間の連携が重要である。本中学校区においても、教職員の意識が少しずつ変わってきているが、今後も継続していくことが更なる効果につながると考える。
- 研修会における演習や講演は、児童生徒のコミュニケーションスキルの知識や技能を向上させる手段として大きな役割を果たしていることから、小学校において研修会を開催することが重要であると考えられる。
- 児童と生徒の交流活動については、「児童会」と「生徒会」が交流することで一定の成果が見られているが、交流活動への参加対象を広げ、より多くの人数で交流することにより、更なる効果が得られると考える。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を分析し、学級や児童生徒一人一人が抱えている課題と指導のポイントを明らかにする取組は、学級経営及び指導の改善充実に向けた手立ての一つとして有効であると考えられる。

七飯町立大中山中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 七飯町立大中山中学校（生徒数294名）
連携小学校名 七飯町立大中山小学校（児童数609名）

本プランの特徴

- 小・中学校生活における、子どもが抱えている対人関係に関する不安や適応への課題点を調査・把握・分析するとともに、小・中学校が連携して、それらの解消に向けた取組を実施しています。
- 生徒指導の機能を生かした教科指導の工夫に努めています。
- 予防的・開発的な教育相談として、構成的グループ・エンカウンターやピア・サポート等の社会的スキルを育成するプログラムを実施しています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、函館市に隣接する七飯町の南部に位置しており、小学校を卒業した100名近くの全児童が、中学校に入学することから、新しい学級で友達関係を築くことができるかなどの友達関係の不安は少ない。

また、中学校の部活動等の情報や、活動内容を普段から見聞きし、把握している児童も多い。

七飯町立大中山中学校では、不登校傾向を示すなどの顕著な中1ギャップを示す事例は少ない。しかし、中学校入学後は、教科担任制の授業へ変わることや、特別教室での授業が多くなること、中学校では、各自の主体性を重視した、自ら考え行動する場面が多くなることなど、生徒がこれまでとギャップを感じる可能性がある。

2 中学校区の課題

落ち着いたある生徒が多く、顕著な問題行動は少なく、授業や部活動も真剣に取り組む様子が見られる。

小・中学校ともに、家庭学習の習慣の定着には課題が見られる。

学校生活において、主体的な行動は少ないが、指示されたことはしっかりと行う。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- ・生徒指導上の問題等について、定期的な連携体制を整備している。
- ・新入学生への説明会において、生徒会による学校紹介を行っている。
- ・中学校の教師が、小学校で出前授業を行い、中学校の授業の進め方についてイメージできるようにしている。

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
七飯町立大中山中学校	校 長	七飯町立大中山小学校	事務職員
七飯町立大中山小学校	校 長	七飯町教育委員会	課 長
七飯町立大中山中学校	教 頭	七飯町教育委員会	係 長
七飯町立大中山小学校	教 頭	七飯町教育委員会	指導主事
七飯町立大中山中学校	教 諭	七飯町教育委員会	主 事
七飯町立大中山中学校	教 諭	渡島教育局	指導主事
七飯町立大中山小学校	教 諭		

5 中1ギャップ解消プランの実際の構成

時 期	七飯町立大中山中学校	七飯町立大中山小学校
4月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 事業推進体制の整備（中心スタッフの任命） ※小・中学校合同実施 </div>	
5月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 第1回検討委員会（4月23日）小・中学校代表、委員会 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有識者を講師とした研修会の実施 ※ 中学校教員対象の実技講習会 （5月16日 講師：大杉ユリ子SC） 	
6月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 第2回検討委員会（6月11日）小・中学校代表、委員会 </div>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第1学年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第6学年）
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 第3回検討委員会（7月23日）小・中学校代表、委員会 </div>	
	授業実践 ・上手な聞き方・伝え方（7月12日） ※手塚教諭の実践（第1学年）	
8月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 第1回集団カウンセリング研修会参加 ※小・中学校からそれぞれ1名参加。 （8月8日 札幌） </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール『ほっと』の実施 ○ 授業構想、学習指導案の作成（第1学年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第6学年）
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 第4回検討委員会（8月30日）小・中学校代表、委員会 2次案内、紀要原稿の割当て </div>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第1学年） ○ 校内研修 ・生徒指導の機能を生かした教科指導の工夫について 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第6学年） ○ 校内研修 ・生徒指導の機能を生かした教科指導の工夫について
10月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 5px; display: inline-block;"> 第5回検討委員会（10月9日）小・中学校代表、委員会 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第1学年） ○ 紀要原稿の作成 ○ 『ほっと』の分析と活用について ※ 中学校での研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業構想、学習指導案の作成（第6学年） ○ 紀要原稿の作成
		「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの実施（第6学年3学級）

11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予防的・開発的な教育相談の予備実践 ・人間関係形成能力をはぐくむ授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予防的・開発的な教育相談の予備実践 ・人間関係形成能力をはぐくむ授業の実施
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 小中授業交流会（11月26日）大中山中学校第3学年外国語科（英語） 佐藤教諭の実践 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 七飯町立大中山中学校区公開研究会（11月26日） ※小・中学校授業公開、北海道医療大学心理学部 冨家直明 教授講演会 </div>		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・公開研究会の実践について 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・公開研究会の実践について
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 第6回検討委員会（12月）小・中学校代表、委員会 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> ・「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの分析 ・分析結果の交流及び活用方法についての検討 </div>		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール『ほっと』の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール『ほっと』の実施
2月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 小学校での「出前授業」の実施（2月25日 大中山小学校） ・中学校の授業の様子を映像で紹介する ・授業体験（外国語科「英語」佐藤教諭、荒尾教諭） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto; margin-top: 10px;"> 「小・中引継ぎシート」の作成 </div>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・本年度の取組の総括 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・本年度の取組の総括 ○ 6年生を送る会 ・各学年が心を込めて準備に当たるなど、よりよい人間関係づくりへの配慮
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 中学校入学説明会 ・「中学校生活で不安なこと」に対するアンケートの結果を基に、中学校生徒会が、小学校第6学年に対し、中学校生活について説明する。 ・部活動の見学 例：中学校の吹奏楽部生徒による演奏発表 </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 小・中学校引継ぎ（小・中引継ぎシート及び『ほっと』データの活用） </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 第7回検討委員会（3月） ・本年度の振り返り、実施報告書について、次年度の計画について </div>		

6 事業の成果

- 生徒指導の機能を生かした授業改善に取り組んだことにより、児童生徒が自己の存在に気付いたり、児童生徒同士が共感的な関係を築いたりするなどの姿が見られるようになった。
- 子ども理解支援ツール『ほっと』を実施したことにより、個々の児童生徒や、学級・学年の人間関係に関わる課題の早期発見・早期対応に役立てることができた。
- 本中学校区の実態に応じた「小・中引継シート」を開発・活用したことにより、児童の実態を客観的な資料を基に、中学校への引継ぎを円滑に行うことができるようになった。
- 小学校第6学年児童の中学校入学に関わる「不安に思うこと」を入学前に把握し、適切に対応することにより、児童が中学校に安心して進学することができた。
- 外部の専門家を講師とした研修会で理解を深めた後、予防的・開発的な教育相談を行うことにより、児童生徒に人間関係形成能力を効果的に培うことができた。

7 今後の課題

- 人間関係を築く力を効果的に育成するために、ピア・サポートや構成的グループ・エンカウンターなどを系統的・計画的に教育課程に位置付ける必要がある。
- 小・中学校の児童生徒同士、教職員同士の交流が少なかったことから、今後、意図的、計画的に実施していくよう、連携体制を一層充実する必要がある。
- 本年度は、子ども理解支援ツール「ほっと」を実施したが、活用方法等については、今後も教職員全員で共通理解を図っていく必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 小学校第6学年を対象に、中学校生活に対する不安や疑問についてのアンケートを実施し、集計結果から中学校生活に対する意識を分析するとともに、中学生との交流会で、不安に思うことなどの解消に向けた取組を行うことは有効である。
- 小学校から、人間関係形成能力をはぐくむピア・サポートや構成的グループ・エンカウンターなど予防的・開発的な教育相談を計画的に実施することで、児童生徒によりよい人間関係を築く力を育成することができ、中1ギャップの未然防止に有効である。
- 具体的な取組を考える際には、子ども理解支援ツール『ほっと』などの調査を実施するなどして客観的な資料を基に、全教員が課題について話し合い、共通理解を図ることが重要である。
- 小学校では、国語科を中心に児童に「伝え合う力」を身に付けさせる校内研究との関連を図り、中学校では、教科指導でも生徒同士、生徒と教師のコミュニケーション活動と関連させる工夫をしたが、日常の様々な場面で、人間関係形成能力をはぐくむことを意識することが大切である。
- 中1ギャップの解消を目指した様々な取組の成果を教育課程に位置付けて、全教員で、計画的・組織的に取り組むことが大切である。

江差町立江差北中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 江差町立江差北中学校（生徒数 61名）
 連携小学校名 江差町立江差北小学校（児童数 117名）

本プランの特徴

- 小中一貫教育を推進するため、系統的な算数・数学科の指導や体系的な郷土学習「えさし学」を中心とした小中9年間を見通したカリキュラムを作成しています。
- 小・中学校が互いの教育内容や児童生徒の実態について共通理解を図り、学習指導及び生徒指導を行うため、小中一貫教育活動日を設定し、合同職員会議及び部会を開催したり、研修会等を実施したりするなどして、教員間の連携を強化する取組をしています。

1 中学校区の特徴

江差町の北部に位置し、水田や畑が広がっている地域、海岸線に沿って開けている地域と変化に富んでいる。近年、柳崎地区周辺に病院、高校、総合病院施設、アパート等の施設が建設され、人口は増加傾向にある。

2 中学校区の課題

本中学校区は、小学校1校・中学校1校で構成される。両校は、校舎が棟続きとなっていることから、町教育委員会との連携のもと、小中一貫教育を推進し、平成23年度から本格実施している。児童生徒は、全体的に明るく素朴であり、楽しく学校生活を送っている反面、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付いていない児童生徒もおり、学力差が大きいことが課題である。また、固定化された人間関係のため、学校生活になじめなくなり、不登校傾向になる生徒が増加している。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- 小中合同の生徒指導事例研修会の実施
- 小中間の授業参観及び授業交流会の実施
- 相互乗り入れ授業の実施（小学校第6学年外国語活動への乗り入れ、中学校第1学年数学科への乗り入れ）
- 小学校第6学年による部活動への体験入部の実施

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
江差北中学校・江差北小学校	校長・教頭・ 一貫教育コーディネーター	江差北中学校区青少年健全育成会 北海道教育庁檜山教育局 江差町教育委員会	会長 指導主事 学校教育課長 指導主事
江差小学校	校長		
南が丘小学校	校長		
江差中学校	校長		
江差北中学校PTA	会長		
江差北小学校PTA	会長		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	江差北小学校	江差北中学校
年度末までに	○平成24年度生徒指導全体計画、特別活動全体計画、特別支援教育全体計画の作成（目標、重点、方策）	○平成24年度生徒指導全体計画、特別活動全体計画の作成 ○平成24年度入学生の情報交換（特別な配慮が必要な児童について）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導全体計画についての共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・問題発生時の対応の仕方 ・いじめ発生時の対応 ・不登校児童への対応 ・教育相談の計画 ○特別活動全体計画についての共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の目標設定と指導の重点 ・活動計画と評価方法の検討 ○特別支援教育計画についての共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の進め方の検討 ・交流学习の進め方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年部会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・新1年生の情報交流 ・新1年生の受入体制と配慮事項等の確認 ○部活動入部へ向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・指導部による仮入部期間の生徒への援助 ・本入部後の部活動顧問との連携 ○生徒指導全体計画についての共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・問題発生時の対応の仕方 ・いじめ発生時の対応 ・不登校児童への対応 ・教育相談の計画 ○特別活動全体計画についての共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の目標設定と指導の重点 ・活動計画と評価方法の検討
	第1回小中一貫教育活動日 ○全体会 ・24年度の一貫教育の推進についての確認	
	○前期の縦割り班の編成・活動計画の立案 ・縦割り班による清掃活動の開始	○「心の健康観察」⇒教育相談
5月	第2回小中一貫教育活動日 ○全体会 ・第1回授業交流会(小学校教員が中学校の授業を参観) ○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・月別具体的活動計画作成 ・乗り入れ授業日程調整 ・振り返りテキスト検証 ・海浜清掃活動案 等	
	○江差町小中一貫教育推進委員会	
6月	第4回小中一貫教育活動日 ○全体会 ・第1回生徒指導交流会 ・中1ギャップ未然防止事業運営協議会報告 ○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・1学期の活動のまとめ ・ソーシャルスキルの育成に関わる学習の計画 ・海浜清掃反省 等	
		○ソーシャルスキルの育成に関わる学習(1年)
	○中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会	
7月	第3回小中一貫教育活動日 ○全体会 ・第1回江差町小中一貫推進委員会報告(事務局より) ・各グループ活動計画説明 ・第1回小中授業交流のまとめ ・海浜清掃、合同避難訓練(火災)の提案(生徒指導グループより) ○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・振り返りテキスト(中学校)検証 ・生徒指導交流会実施案検討 等	
	○小中合同避難訓練(火災) ○小中ソーシャルスキルの育成に関わる学習(小5・6年・中1年)	
	○乗り入れ授業(外国語活動6年) ○子ども理解支援ツール「ほっと」実施(5・6年)	
8月	第5回小中一貫教育活動日 ○全体会 ・1学期活動のまとめ ・2学期に向けての確認事項及び進捗状況報告 ・中1ギャップ未然防止事業運営協議会及び研修会報告 ・子ども理解支援ツール「ほっと」の活用について ○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・乗り入れ授業計画 ・つまずきチェックシート ・合同避難訓練計画 等	

8月	○中1ギャップ問題未然防止事業研修会
9月	<p>第6回小中一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・第2回小中一貫教育推進委員会報告(事務局) ・郷土学習全体計画提案及び郷土学習アンケート説明(学習指導グループより) ・赤い羽根共同募金実施計画(生徒指導グループより) ・中1ギャップ未然防止事業研修会報告 ・子ども理解支援ツール「ほっと」の活用について</p> <p>○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・乗り入れ授業計画 ・つまずきチェックシート ・合同避難訓練計画 等</p>
10月	<p>○小中合同避難訓練(地震・津波)</p> <p>第7回小中一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・算数・数学つまずきチェックシートの分析結果報告(学習指導グループより) ・合同避難訓練反省報告(生徒指導グループより)</p> <p>○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・ソーシャルスキルの育成に関わる学習の計画 ・赤い羽根共同募金計画 等</p>
11月	<p>第8回小中一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・学力向上に関する具体的な取組についての提案(学習指導グループより) ・第2回授業交流実施案提案(学習指導グループより) ・赤い羽根共同募金活動報告(生徒指導グループより) ・三笠市小中一貫教育研究会参加報告(中学校教頭)</p> <p>○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・えさし学中間反省 ・授業交流会話し合い骨子検討 ・「えさし学」中間確認及び実践報告のまとめについて 等</p>
12月	<p>○特別支援学級在籍第6学年児童の指導状況の報告・引継ぎ計画 ・学級担任・特別支援コーディネーター・管理職による状況説明・実態把握</p> <p>○小中合同赤い羽根共同募金活動(児童会・生徒会) ○三笠市小中一貫教育研究会参加 ○小中ソーシャルスキルの育成に関わる学習(小5・6年、中全学年) ○三笠市コミュニティスクール視察 ○「ほっと」「アセス」実施(小1～4年、中全学年) ○小中一貫教育研究大会(大中山中)参加</p> <p>第9回小中一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・第2回授業交流会(中学校教員が小学校の授業を参観) ・小中一貫吹奏楽交流反省報告(生徒指導グループより) ・合同避難訓練反省報告(生徒指導グループより)</p> <p>○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・授業交流会のまとめ ・振り返りテキストの検証推進日程・内容等の確認 ・生徒指導・生活指導系統項目の検討 ・ソーシャルスキルの育成に関わる学習の計画 等</p>
1月	<p>○北海道医療大学交流事業実施案検討 ・大学生との交流事業 ・小中一貫教育講演会 ・子育て支援講演会</p> <p>○小中合同漢字検定</p>
2月	<p>第10回小中一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・24年度一貫教育年間活動の総括・展望 ・「中1ギャップ」問題未然防止事業の総括・展望</p> <p>○北海道医療大学交流事業 ・大学生との交流事業 ・小中一貫教育講演会 ・子育て支援講演会</p> <p>○中学校入学説明会 小学校第6学年の児童が中学校の授業に体験的に参加し、中学校生活への不安軽減</p> <p>○中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 ○ソーシャルスキルの育成に関わる学習(小5・6年、中1年)</p>

3月	<p style="text-align: center;">第11回小中一貫教育活動日</p> <p>○全体会 ・ ソーシャルスキルの育成に関わる学習の年間指導計画案提案(生徒指導グループより) ・ 年間活動の総括 ・ 反省について</p> <p>○グループ別活動(学習指導グループ、生徒指導グループ) ・ 年間活動のまとめ ・ 中1ギャップ年間活動のまとめ 等</p>
	<p>○小中引継ぎ ・ 「アセス」、「ほっと」データによる引継ぎ</p>

6 事業の成果

- ソーシャルスキルの育成に関わる学習と吹奏楽交流等の体験的な活動を通して、小学校と中学校の交流が図られ、中学生には「先輩としての自覚」や「自律心」が生まれ、小学生には「中学校入学への期待感」や「中学校生活に対する安心感」を与えることができた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析・活用に関する研修を行うことにより、教員が客観的なデータに基づく、児童生徒理解を深めることができた。
- 小中の合同行事・異学年交流では、中学生の行動が、小学生に対するよい教育効果となって表れ、中学校に対する「安心感」や中学生に対する「信頼感」を与えることができた。
- 小学校の教員が、中学校の数学科の授業に出向く乗り入れ授業では、複数の教員によるきめ細やかな指導を行うことができた。また、中学校の教員が小学校の外国語活動に出向く乗り入れ授業では、発音や会話など、中学校教員の専門性を生かした指導により、中学校の外国語の授業への円滑な接続に資する指導を行うことができた。
- 年間を通じて、小・中学校の教員が定期的・継続的に、合同で会議や打合せを行うことにより、小・中学校の教員が互いの教育活動や児童生徒の実態について理解を深めることができ、指導に生かすことができた。

7 今後の課題

- ソーシャルスキルの育成に関わる学習については、「ほっと」や「アセス」のデータの活用や教職員間の情報交流により、児童生徒に身に付けさせたいコミュニケーションスキルを明確にし、児童生徒の興味・関心を持続させるような内容や実施方法を工夫する必要がある。
- 「ほっと」「アセス」等のコミュニケーション能力を測定するツール、アンケートなどを活用し、児童生徒の変容や取組の成果の検証において、定量的なデータの活用を充実させる必要がある。
- 取組の質的な向上を図るために、PDCAサイクルを生かした内容の改善を行うとともに、活動の精選や新規事業の導入、効果的な実施時期の設定や見直しなどを行う必要がある。
- 一貫教育活動日以外での会議・打合せ日の設定については、拠点校である江差北中学校がリーダーシップをとり、運営・推進の効率化を図っていくことが必要である。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 小・中学校が合同でソーシャルスキルの育成に関わる学習を行うなど、実施方法を工夫し、児童生徒の好ましい人間関係を構築するとともに、小学校から中学校への円滑な接続を図ることが大切である。
- 小・中学校の教員がより一層連携を深めるために、学校間の連絡・調整を行うコーディネーターを配置するとともに、全教職員が参加した合同の会議や研修を行うことが大切である。
- 学習に関する児童生徒の不安を解消するために、小・中学校教員による相互乗り入れ授業を実施し、9年間を見通した系統的な指導を行うとともに、児童生徒の長期的な学習状況を把握することが大切である。

東神楽町立東神楽中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	東神楽町立東神楽中学校	(生徒数 364名)
連携小学校名	東神楽町立東聖小学校	(児童数 456名)
	東神楽町立東神楽小学校	(児童数 239名)
	東神楽町立忠栄小学校	(児童数 9名)
	東神楽町立志比内小学校	(児童数 8名)

本プランの特徴

- 小中合同で「中1ギャップ解消」に向けての研修、交流を実施しています。
- 「中1ギャップ解消」に向け、既存の組織を活用した推進体制を確立しています。
- 子ども理解支援ツールを活用した小中合同での児童生徒の実態分析、交流を実施しています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、旭川近郊で、旭川空港の所在地である。新興住宅地と農業地域が並立しており、規模の異なる小学校を4校有している。学校の教育に対する保護者や地域の関心は高く、子どもへの期待感が高い。

2 中学校区の課題

本校の生徒は、明るく素直であり、おとなしい傾向にある。4校の小学校を卒業した生徒が通うため、人間関係の構築に不安を抱えていたり、通常の学級にも特別な支援を要する生徒が在籍したりするため、コミュニケーション能力を高め、社会性を身に付けさせることが課題である。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- 小・中学校合同の東神楽町生徒指導連絡協議会の実施
- 小・中学校及び関係機関との連携を図った特別支援連絡協議会の実施
- 東神楽町教育研究会による合同文化事業（音楽の集い）の実施
- 町内の幼、小・中学校の園児・児童生徒が一堂に会する文化交流（合唱、演奏）の毎年開催
- 「いのち」を大切にする小・中学校合同のサケのふ化・放流事業の実施

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
東神楽町立東神楽中学校	校長	東神楽町立東聖小学校	教諭（6年担任）
東神楽町立東神楽中学校	教頭	東神楽町立忠栄小学校	校長
東神楽町立東神楽中学校	教諭（生徒指導）	東神楽町立忠栄小学校	教頭
東神楽町立東神楽中学校	教諭（教務）	東神楽町立忠栄小学校	教諭（5・6年担任）
東神楽町立東神楽小学校	校長	東神楽町立志比内小学校	校長
東神楽町立東神楽小学校	教頭	東神楽町立志比内小学校	教頭
東神楽町立東神楽小学校	教諭（6年担任）	東神楽町立志比内小学校	教諭（5・6年担任）
東神楽町立東神楽小学校	教諭（生徒指導）	東神楽町教育委員会	教育課長
東神楽町立東聖小学校	校長	東神楽町教育委員会	学校教育アドバイザー
東神楽町立東聖小学校	教頭		
東神楽町立東聖小学校	教諭（6年担任）		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	東神楽中学校	東神楽小学校 東聖小学校 忠栄小学校 志比内小学校
3月～ 4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小学校との新1年生に関わる引継ぎ ・新1年生の交友関係、生活状況等の把握 ・入学後の配慮事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校への情報提供 ○ 特別支援を必要とする生徒についての情報提供と個別の支援計画「すくらむ」による引継ぎ
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">第1回 東神楽町生徒指導連絡協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ねらい、内容、重点等の確認 ○ 人間関係、生活習慣、学習規律の把握と交流 </div>	
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">中1ギャップ問題未然防止事業の事業内容の確認（各校代表者）</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; background-color: #e0ffe0;"> <p style="text-align: center;">第1回 東神楽中学校区の中1ギャップ問題検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ解消に向けた事業内容及び組織の確認 ○ 年間の活動計画の作成 </div>	
7月	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; background-color: #e0ffe0;"> <p style="text-align: center;">中1ギャップ問題未然防止学習会①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップの発生原因や未然防止の考え方等についての学習会 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の活用についての学習会 <p style="text-align: center;">【講師】上川教育局義務教育指導班指導主事</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">第1回子ども理解支援ツール「ほっと」の実施</p> <p>※東神楽中学校全校生徒及び各小学校全校児童を対象に実施 ※各学校のデータを持ち寄った分析交流のための準備</p> </div>	
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 45%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">第1回（ほっと）の分析</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 45%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">第1回（ほっと）の分析</p> </div>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%; background-color: #e0ffe0;"> <p style="text-align: center;">中1ギャップ問題未然防止学習会②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール（ほっと）の活用と分析に関わる協議 <p style="text-align: center;">【講師】上川教育局義務教育指導班指導主事</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">子ども理解支援ツールの分析、教育相談等における分析結果の活用方法の検討</p> </div>	
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 45%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">教育相談の実施</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 45%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">教育相談の結果の交流</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 45%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">教育相談の実施</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 45%; background-color: #e0e0ff;"> <p style="text-align: center;">教育相談の結果の交流</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">部活動と少年団（小学校）の交流（バスケットボール） 参観日における小中の交流</p> </div>	

10月	生徒指導交流会の実施	生徒指導交流会の実施 小学校学習交流会 ○ 小規模校と大規模校の学習等の交流
11月	教育相談の実施 進路相談の実施 三者懇談の実施 結果の分析と生徒指導事例研修の実施	生活アンケート、教育相談の実施
12月	<p align="center">第2回子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 ※各学校でデータを分析、交流するための準備</p> <p align="center">東神楽町 中1ギャップ問題検討・学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会における実施内容の検討 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」結果の交流 ○ 小・中学校の引継ぎの在り方についての検討 ○ 保護者を対象とした中学校説明会及び各小学校を会場とした児童を対象とした中学校説明会の検討 	
1月	<p align="center">中1ギャップ問題未然防止学習会③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講演「認知行動療法を教育現場に」の開催と子ども支援についての研修 <p align="center">【講師】臨床心理士 太田 慈春氏（こころsofa主宰・札幌市スクールカウンセラー）</p>	
2月	<p align="center">第2回 東神楽町中学校区の中1ギャップ問題検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の各学校での活動成果の交流 ○ 小・中学校の引継ぎ情報の交流 ○ 中学校説明会の実施内容と方法の検討 <p align="center">東神楽中学校学校説明会（保護者） 小学校へ出向き中学校の説明会（6年生）</p>	
3月	<p align="center">平成24年度の取組の反省</p>	

6 事業の成果

「児童生徒の心の状況を把握したきめ細かな対応」、「人間関係を形成する力を育成するための東神楽町内の教職員の研修の充実」、「小・中学校の緊密な連携体制の整備」の三点を重点に事業を推進してきた。各項目における成果は次のとおりである。

- 「児童生徒の心の状況を把握したきめ細かな対応」
 - ・ 子ども理解支援ツール「ほっと」を年2回実施し、活用に関わる研修を小中合同で実施した。また、「ほっと」の結果を分析するとともに、その結果をもとに児童、生徒の指導や学級経営の視点として活用した。特に、教職員がコミュニケーションを図る指導方策の検討や教育相談等につ

なげてきたことで、児童生徒の心に寄り添い、個や学級全体への指導の充実を図ることができた。

- 「人間関係を形成する力を育成するための東神楽町内の教職員の研修の充実」
 - ・今年度から活用する「ほっと」の理解と実際の調査の分析を通して、個に応じた指導や学級活動において人間関係に配慮した指導の充実を図ることができた。また、臨床心理士を講師にした研修会を実施することにより、教職員が児童生徒の内面を理解し、指導の改善を図ることで、子どもと教職員、子ども同士のよりよい人間関係を形成する力を向上させることができた。特に、全小・中学校の教職員が一堂に会して研修を実施し、相互交流を深めることにより、今後の「中1ギャップ解消」に向けた取組の推進について共通理解を図ることができた。
- 「小・中学校の緊密な連携体制の整備」
 - ・「中1ギャップ問題検討委員会」を立ち上げ、小・中学校が互いに授業参観日にあわせ授業を公開したり、第6学年の児童を対象とした中学校説明会や引継ぎ内容について、生徒指導面、学習面や人間関係等に関わって交流したりできる体制を整備した。

7 今後の課題

- 小・中学校が連携し、組織的な対応ができるよう、小・中学校の合同研修の機会を増やすとともに、既存の組織体制の連携が図られるような体制の整備を今後も進める必要がある。
- すべての子どもに人間関係を形成する力が育成されるよう、児童生徒が主体となった取組を計画的・継続的に行う必要がある。
- 保護者や地域と連携し、「中1ギャップ解消」に取り組むことができるよう、本事業について積極的に情報提供し、町P連・社会教育との連携を密にしながら学校や家庭、地域が児童生徒のコミュニケーション能力の向上について取り組む必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 「中1ギャップ解消」に向けては、小・中学校の教職員の共通理解のもと組織的に推進していくことが大切であることから、既存の組織である生徒指導連絡協議会や特別支援連絡協議会等との連携を図り、相互の情報交流を行える推進体制の構築を図る。
- 「中1ギャップ解消」に向けては、児童生徒の理解が大切であることから、子ども理解支援ツール「ほっと」を継続的に実施し、きめ細かく心の変化を見取り、指導の充実に生かすことが有効である。また、その実施に当たっては、全町の教職員を対象に研修を実施し、児童生徒理解の在り方や適切な指導について指導力の向上を図るとともに、小・中学校の交流を積極的に推進していく。

網走市立第二中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	網走市立第二中学校 (生徒数202名)
連携小学校名	網走市立西小学校 (児童数199名)
	網走市立中央小学校 (児童数270名)

本プランの特徴

- よりよい人間関係を築くために、ピア・サポートを学習しています。
- 児童生徒の交流活動を工夫することで、コミュニケーション能力の育成や小学校から中学校へのスムーズな移行を目指しています。
- 生活アンケートを工夫し、教育相談の充実を図っています。

1 中学校区の特徴

本中学校は、網走市の市街地に位置しており、現在、学級数は9学級（特別支援学級3を含む）、生徒数は202名で、今後5～6年は、240人台に増加する見込みである。

本中学校区には、西小学校と中央小学校の2校があり、中学校入学時には、約半数が新たな友人となることから、第1学年における人間関係づくりの取組を意図的、計画的に進めていくことが求められる。

2 中学校区の課題

生徒は素直でやさしく、互いに思いやりをもって生活しており、間違っただけを許さず、拒否をしたり、注意し合ったりすることのできる雰囲気がある。一方で、積極的に挨拶をすることを苦手とする生徒が見られるなど、生徒のコミュニケーション能力を一層高めていく必要がある。

学習面では、落ち着いたある真剣な学習態度で取り組み、与えられた課題は確実に果たすことができるが、自分で課題を立て、解決する力が育っていない生徒もいる。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- ・小・中学校合同の生徒指導連絡協議会の実施
- ・小・中学校及び関係機関との連携を図った特別支援連絡協議会の実施

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所属	役職	所属	役職
網走市立第二中学校	教頭	網走市立中央小学校	教頭
網走市立第二中学校	教務	網走市立西小学校	教頭
網走市立第二中学校	生徒指導	網走市立西小学校	教務
網走市立第二中学校	研修		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時期	第二中学校	西小学校、中央小学校
5月	ピア・サポート授業	
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">第1回いじめアンケートの実施 (道教委の調査に基づいた実施)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第1回生活アンケートの実施 (全学年における「Q-U」の実</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">第1回いじめアンケートの実施 (道教委の調査に基づいた実施)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第1回生活アンケートの実施 (第6学年における「Q-U」の実</div>
7月	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <u>事業推進計画の作成及び事業体制の整備（中心スタッフの任命）</u> （小・中合同実施） <u>第1回中1ギャップ問題スタッフ会議（小中連携推進会議）</u> ・今後の事業内容の確認 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">小中合同ピア・サポート研修会</div>	
8月	第2回いじめアンケートの実施 (道教委の調査に基づいた実施)	第2回いじめアンケートの実施 (道教委の調査に基づいた実施)
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <u>小中合同生徒指導研修会（「Q-U」の活用について）</u> （9月26日 網走市立第二中学校視聴覚室） 講師：釧路工業高等専門学校教授 三島 利紀 ・教育相談の実践と方法について ・「Q-U」を活用した生徒理解について </div>	
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ピア・サポート授業</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第2回生活アンケートの実施 (全学年における「ほっと」の実施</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第2回生活アンケートの実施 (第6学年における「ほっと」の実施</div>

11月	<div data-bbox="312 210 818 315" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第3回いじめアンケートの実施 (道教委の調査に基づいた実施)</div> <div data-bbox="312 338 818 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第3回生活アンケートの実施 (全学年における「Q-U」の実</div>	<div data-bbox="898 210 1404 315" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第3回いじめアンケートの実施 (道教委の調査に基づいた実施)</div> <div data-bbox="898 338 1404 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第3回生活アンケートの実施 (第6学年における「Q-U」の実</div>
12月	<div data-bbox="325 577 1391 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>第2回中1ギャップ問題スタッフ会議</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組の進捗状況の確認、今後の課題についての協議 ・各校の「学習の決まり」についての検討 ・「Q-U」及び「ほっと」の活用による生徒理解について交流 </div>	
2月	<div data-bbox="320 869 847 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第4回生活アンケートの実施 (全学年における「Q-U」及び「ほっと」の実施)</div> <div data-bbox="320 1055 1399 1218" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新入生交流会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活への不安解消を目的とした、各小学校第6学年と中学校第1学年の交流 </div>	<div data-bbox="895 869 1406 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第4回生活アンケートの実施 (第6学年における「Q-U」及び「ほっと」の実施)</div>
3月	<div data-bbox="336 1330 1418 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>第3回中1ギャップ問題スタッフ会議</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生交流会の反省 </div> <div data-bbox="344 1480 1426 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">小・中学校での引継ぎ</div>	

6 事業の成果

○ 生活アンケート「Q-U」及び「ほっと」の活用

「Q-U」及び「ほっと」を活用することにより、児童生徒の学級に対する満足度や集団の状態を把握することが可能となり、教育相談活動に役立てることができた。また、釧路工業高等専門学校の三島教授による研修会を実施したことにより、「Q-U」を活用した教育相談の在り方を学ぶことができた。教師による学級及び学年の的確な分析と教育相談の充実により、児童生徒の中1ギャップが解消されてきている。

○ 新入生交流会の実施

小学校6年生と中学校1年生による交流会では、中学校1年生が企画や運営を担い、スライドによる学校紹介やゲーム、新入生からの質問などを行った。小学校6年生の中学校生活への不安を解消しようと、小学校6年生からの質問に答える場を設定するなど、中学校1年生が、自分たちの体験をもとに6年生に接することができ、小学校6年生の不安解消のみならず、中学校1年生の自己有用感を高めることにもつながった。

○ ピア・サポート授業の実践

『教え合い、独りぼっちないない学校』を目指し、コミュニケーション能力の育成と課題解決能力の育成を目的としたピア・サポート活動（相談活動、対立解消、仲間づくり、アサーションなど）に取り組んできた。「自己理解」「プラスのストロークを贈る」「上手な指示の出し方」などを授業で実践することにより、互いの立場を考えて行動したり、自分の考えを主張したりする姿が日常でも見られるようになるなど、生徒のコミュニケーション能力が少しずつ向上している。

7 今後の課題

○ 引継ぎの工夫

小学校から中学校への円滑な接続を図るため、各学校での「学習の心得」など、授業におけるルールについて、ポイントとなる事項を検討し、いくつかの事項を共通化していく必要がある。また、生活アンケート「Q-U」及び「ほっと」を各学校で活用したことから、生活アンケートの結果を記載した引継ぎシートを作成するなど、各小学校で実施した生活アンケートの情報が的確に引き継がれる工夫を行う必要がある。

○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の活用

子ども理解支援ツール「ほっと」を活用するに当たり、集計されたデータの分析や活用が不十分であったことから、分析や活用の事例に関する情報を集め、研修を行うなどして、しっかりと活用できるようにする必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 小学校6年生を対象とした、中学校生活に対する不安や疑問についてのアンケートを実施し、それに対して中学生が答える取組や、不安を解消するための学校紹介の取組は大変有効である。
- 小学校段階からピア・サポートを特別活動等に計画的に取り入れることは、発達段階に応じた人間関係を築く力やコミュニケーション能力の育成を図ることができ、中1ギャップ解消に有効である。

標津町立標津中学校区・川北中学校区における 中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名:標津町立標津中学校(生徒数 133 名)
連携小学校名:標津町立標津小学校(生徒数 209 名)

拠点中学校名:標津町立川北中学校(児童数 39 名)
連携小学校名:標津町立川北小学校(児童数 109 名)

本プランの特徴

- 小・中合同研修会の中で、授業における共通指導事項を確認し、授業への不応を防止します。
- 小・中交流合同活動による学校間の連携を深め、中学校生活に対する児童の不安を取り除きます。
- 出前授業を行うことによって、児童が中学校の授業に見通しをもてるようにします。
- 生活アンケート（アセス）による充実した教育相談を行い、児童生徒の客観的理解に努めます。

1 中学校区の特徴

標津町は「標津地区」「川北地区」の2つの中学校区があり、両地区ともに、地域で子どもを育てる意識が高く、教育に関する豊富な資源を有する。特に、町が独自に設置している「標津町教育研究所」では、標津地区と川北地区の全教職員が共通の課題をもって、その解決に向けた共同事業や研修講座を多種にわたって企画しており、児童生徒の健全育成に貢献している。

2 中学校区の課題

両地区ともに、幼少期から同一環境のもとで育っていることから、表立った人間関係におけるトラブルは少ない。反面、安定した人間関係の中で生活しているため、自分の意見をしっかりともち、異なる意見や価値観とぶつかり合いながら、考えを深める経験が少ない。こうしたことから、切磋琢磨しながら学び合い、高め合える人間関係を構築するための支援が重要であると考えます。また、学業不振から学校生活への不応を起す可能性がある児童生徒が複数いるため、小・中学校で共通した指導を実践していくことが必要である。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- ・ 中学校から小学校への出前授業の実施
- ・ 小・中相互による授業参観及び小・中合同研修会（ピア・サポート研修等）の実施
- ・ 児童生徒による合同活動の企画と実施

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
標津中学校	校長・教頭	川北中学校	校長・教頭
標津中学校	研修部長	川北中学校	研修部長
標津小学校	校長・教頭	川北小学校	校長・教頭
標津小学校	研修部長	川北小学校	研修部長
標津小学校	6年生担任	川北小学校	6年生担任
標津町教育委員会	指導主幹		

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	標津中学校・標津小学校	川北中学校・川北小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒理解研修（中学校にて） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校からの情報提供をもとに入学後の配慮、特別な支援を要する生徒の情報交流 <p>出前授業打合せ（中心スタッフの確認、取組の方向性と日程調整を小・中合同で行う）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒理解研修（中学校にて） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校からの情報提供をもとに入学後の配慮、特別な支援を要する生徒の情報交流 <p>川北地区小中連絡協議会部会打合せ（今年度の組織、体制の確立、計画の立案）</p>
5月	<p>第1回小・中合同研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学1年生の授業を小・中学校の全教職員で参観。変容ぶりや学習規律の徹底等についての確認と研修。 ・ P T Aや地域への情報発信について検討。 <p>↓</p> <p>春季小・中合同P T A親子環境整備</p>	<p>川北地区小中連絡協議会総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習部会⇒研究テーマの確認と学習規律の徹底について協議。 ・ 生活部会⇒生活習慣チェックシートの作成と生活改善への方向性について確認。
<p>第1回標津町生活アンケート（アセス実施）</p> <p>↓</p> <p>分析と教育相談の実施</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ソーシャルスキルの育成（中学校） ○ 異学年縦割り活動（小学校） 	
6月	<p>標津町教育研究所主催「アセスの活用に関する研修講座」及び「中1ギャップ問題未然防止学習会・研究協議」（中1ギャップの発生原因や教育相談についての学習会）</p> <p>【講師】学校教育局参事（生徒指導・学校安全）主査 藤田 祐二 氏</p>	
	<p>共通校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校における教育相談の改善（かたるベタタイム～いつでも誰とでも） ○ 小学校における教育相談の改善 	<p>第1回小中合同研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の全学級の授業を公開。授業を通して各部会の活動を検討。特に、中1の変容を見取り今後の指導に生かすことについて確認。 <p>ロシア人訪問団の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒との合同活動として、小・中のP T Aや地域が中心となり取り組む。
<p>中1ギャップ問題未然防止事業の事業確認（標津町教育研究所の研修テーマの1つとして）</p>		
<p>標津町「第1回中1ギャップ問題未然防止推進委員会」開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中1ギャップ問題未然防止に向けた活動計画の確認、組織、体制づくり ・ 解消プランの検証と改善 		
7月	<p>第1回標津町生徒指導連絡協議会</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中交流合同活動打合せ会議 <p>小・中交流合同活動（児童会・生徒会の企画によるミニ運動会）</p>	<p>共通校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律の徹底と生徒指導の機能を生かした授業改善について
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団カウンセリング研修会参加（2名） 	
<p>教育研究所主催研修講座「集団カウンセリングと教育相談の実際」</p>		
<p>小・中の少年団と部活動交流、吹奏楽合同演奏会開催（～11月まで継続実施）</p>		

9月	第2回小・中合同研修会 ・出前授業の様子を中学校の教員が参観。事後に共通指導事項について確認し、学習への不適応防止について協議。	第2回小・中合同研修会 ・小学校参観週間の実施⇒中学校教員の参観。 ・共通指導事項についての研修成果の確認。
○ 幼稚園児と行う小・中学生ボランティア ○ 教育実践発表研究会へ向けてのプレ授業 秋のあいさつ運動		
10月	「中1ギャップ問題未然防止推進委員会」教育実践発表研究会部門打合せ会議 ○ 異学年縦割り活動（文化祭・学習発表会）	第1回幼・小・中合同研修会 ・幼稚園の授業参観週間の実施。成果の確認。
11月	標津町「第2回中1ギャップ問題未然防止推進委員会」開催 ・教育実践発表研究会についての検証と今後の実践 ・第2回生活アンケートの活用方法についての検討 ・合同研修のテーマと内容の検討	
標津町教育研究所主催「造形まつり」 ～合同作品を完成させるとともにお互いの作品を交流しよう～		
教育実践発表研究会（川北地区で開催） 全教職員が参加し、小・中学校の連携について研究協議を行う		
第2回標津町生活アンケート（アセス実施）		
分析と教育相談の実施		
○ソーシャルスキルの育成（中学校） （全生徒と教職員が参加して実施）		
標津町教育研究所主催：さきがけ研修「ふるさと教材（小・中共通）を発掘しよう」		
12月	生徒指導連絡協議会による生徒指導情報交流会の実施 標津町教育研究所主催：さきがけ研修「小・中学校がつながる理科実験の実践」	
1月	小・中学校の引継ぎに関する内容、様式等の検討と出前授業の反省	
2月	標津町「第3回中1ギャップ問題未然防止推進委員会」開催 ・生活アンケートの結果の交流 ・引継ぎに関する検討	
中学校への体験入学、中学生との合同授業の実施 ・中学校での生活に対する不安や疑問を質問し、生徒が回答する交流活動を行った。 ・中学校での模擬授業を受けた。 ・部活動の交流を行った。		
第3回小・中合同研修会 ・引継ぎ業務の確認、支援を要する生徒の交流。		
3月	標津町「第4回中1ギャップ問題未然防止推進委員会」開催 ・引継ぎに関する検討、平成24年度の取組の反省と次年度の実践への提言。	

6 事業の成果

- 小・中学校の教員が、出前授業や合同研修等を通して授業における共通指導事項を確認し、確実に連携することによって、児童の中学校における授業への期待感を高めることができた。
- 小中交流合同活動やPTA親子環境整備等、小・中学校間の交流活動を実施することによって児童が中学校での生活に見通しをもつことができ、不安を軽減することができた。
- 出前授業の実施により、お互いの学校が相互の履修内容に理解を深め、関連性をもった授業展開を行うことができるようになった。
- 町の教育研究所が主体となり、2つの地区で共通した問題に取り組むことにより、問題点を共有するとともに、解決策に関する研修、講座を充実することができた。
- 生活アンケート（アセス）を実施し、その結果を分析した内容に基づいた教育相談を行うことで、児童生徒の実態把握と個々の問題への早期対応ができた。

7 今後の課題

- 小・中学校の相互授業参観による合同研修において、中学校の教員が小学校の学習内容や指導事項等を事前に把握することができるよう、学習の方法や教材について議論できる体制づくりが必要である。
- 全ての児童生徒の「人間関係育成能力」を高めることができるよう、目的を明確にした小・中交流合同活動の計画的な取組が必要である。
- 中1ギャップ問題未然防止に向けた取組が計画的に行えるよう、9年間を見通した教育課程の改善と充実に取り組んでいく必要がある。
- 保護者や地域と連携した中1ギャップ解消への取組が活発になるよう、各地区での取組に関する情報発信を工夫する必要がある

◇◇◇ 中1ギャップ問題を解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 中1ギャップ問題を解消するための基盤づくりとして、小・中学校の教員がつながり、協力・協働体制の構築が大切となる。特に中学校区のみでの活動ではなく、町全体で問題を焦点化し、改善のための策を講じ、全教職員が同一步調で実践していくことをとおして、中1ギャップ問題の解消につながる実感ができた。
- 出前授業等では、児童が中学校の授業の雰囲気を感じることによって学習への不安感を軽減することができるのと同時に、現在の学習内容が中学校でどのように生かされるかが明確になり、見通しをもった学習に取り組むことができる。
- 小・中学校が取り組む学習規律の徹底事項については、小学校から中学校への連続性を重視しながら共通化を図る必要がある。また、ノート指導については、児童生徒の発達の段階に合わせながらノート記入の仕方やノートを使った学習指導の共通化について小・中学校の合同研修会などで検討し、統一して指導することで、進級に伴う授業形態の変化への不安を解消することができる。
- 生活アンケート（アセス）による児童生徒理解は、結果の分析と教育相談の実践があっただけでは効果が上がるものではないことから、小・中学校が連携して分析し、教育相談の結果を交流することが大切である。

別海町立別海中央中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 別海町立別海中央中学校(生徒数181名)
 連携小学校名 別海町立別海中央小学校(児童数412名)

本プランの特徴

- 学びの基礎となる学習規律の徹底や子ども理解支援ツール「ほっと」の活用を通して、これまでの小・中・高等学校の連携の在り方を見直しています。
- 町内の各種会議において異校種間の引継ぎの具体的な取組として子ども理解支援ツール「ほっと」の結果と考察を活用した引継ぎ事例について説明しています。
- 中学校の数学科担当教員がチーム・ティーチングで算数の授業を行うなど、学力の向上を図るとともに、中学校におけるスムーズな学びを保障しています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、本町の中心部に位置しており、高等学校1校と保育所が1園、私立幼稚園が2園ある。3つの保育所・幼稚園から入学してきたほとんどの子どもが同じ中学校、高等学校へと進学していくことから、新しい人間関係を構築する難しさはない。しかし、中学校入学後は、教科担任制による授業形態の変化や部活動における上下関係等が原因となり、学校生活に不安を抱く生徒が増え、不登校になる生徒が多くなっている。

2 中学校区の課題

別海中央中学校には別海中央小学校の全児童が入学する。生徒は素直でまじめで、学校行事などには一生懸命取り組む姿勢が見られるが、一方では、指示待ちの姿勢、自ら学習する意欲の希薄さ、挨拶や清掃活動に取り組む姿勢の格差、長時間のテレビの視聴やゲームによる生活習慣の乱れなどが見受けられ、勉学が将来に役立つという考えが確立できないなどの課題がある。

3 平成23年度までの小・中連携の状況

- ・小中高一貫教育懇談会や別海町幼小中高生徒指導連絡協議会において児童生徒の実態や生徒指導上の問題について協議している。
- ・両校の自主公開研究会において研究成果や授業実践を発表し合うとともに、研究協議の中で児童生徒の学習状況や学習規律など学力向上に関する情報交換を行っている。
- ・中学校で開催する新入生への説明会において保護者への説明だけでなく、第1学年の授業参観や生徒会による学校紹介を行っている。

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
別海町立別海中央中学校	教頭	別海町立別海中央小学校	教諭
別海町立別海中央中学校	教諭	別海町立別海中央小学校	教諭
別海町立別海中央中学校	教諭	別海町立別海中央小学校	養護教諭
別海町立別海中央中学校	養護教諭	別海町教育委員会	指導主幹
別海町立別海中央小学校	教頭	別海町教育委員会	主事

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	別海町立別海中央小学校	別海町立別海中央中学校
6 月	<p>教育委員会職員及び拠点校・連携校の管理職による事業推進体制の打合せ（6月18日）</p> <p>①「中1ギャップ」解消に向けた具体的な取組プランの策定 ②出前授業の改善や引継ぎの工夫など小・中学校の緊密な連携体制の整備 ③児童生徒の人間関係力やコミュニケーションスキルの育成 ④児童生徒の「生活アンケート」の実施と適切な支援 ⑤中学校区での取組の実践検証と町内への普及活動</p> <p>○ 校内研修 ・「中1ギャップ」解消に向けた具体的なプランの検討</p>	<p>○ 校内研修 ・「中1ギャップ」解消に向けた授業改善につながる協議</p>
* 数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(32時間)		
7 月	<p>第1回研修会「学校・学級経営に活かせるアセスの活用」（7月5日） 別海町教育委員会 指導主幹 荒井道夫氏を講師に招き、アセスの具体的な活用方法と分析に基づいた児童生徒へのかかわり方について指導を受けた。</p> <p>○ 自己研修 ・長期休業中に自校でのアセスの結果を分析し、2学期以降の対応を考える。</p>	<p>○ 自己研修 ・長期休業中に自校でのアセスの結果を分析し、2学期以降の教科指導における指導方法を考える。</p>
* 数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(22時間)		
8 月	<p>第2回研修会（8月20日） 「子ども理解支援ツール「ほっと」の活用」 根室教育局義務教育指導班 指導主事 大月さゆり氏を講師に招き、学校・学級経営に活かせる「ほっと」の活用について指導を受けた。</p>	<p>○ 校内研修（8月27日） ・検討委員会の構成員である小学校の教頭と第6学年担任が講師となり、小学校における「ほっと」の活用状況と分析について説明する。</p>
* 数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(24時間)		
9 月	<p>第1回中1ギャップ検討委員連絡協議会（9月11日） ・各校の取組状況や数学担当教員のTT指導等について協議する。 ・協議結果を踏まえ、今後の取組について検討する。</p>	
* 数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(34時間)		
10 月	<p>○ 校内研修 ・授業構想、学習指導案の作成（第6学年）</p>	<p>○ 校内研修 ・授業構想、学習指導案の作成（第1学年）</p>
* 数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(12時間)		

11月	<p>第3回研修会「異校種間での引継ぎを意識した「ほっと」の活用」(11月9日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校第6学年担任と中学校養護教諭が自校の「ほっと」の分析結果に基づいた対応について説明し、同一調査を行った上で客観的データを引き継ぐ効果について紹介する。 ・別海町教育委員会 指導主幹 荒井道夫氏の助言から9年間の育ちを通して児童生徒をより深く理解することの大切さを学んだ。 	
	<p>○ 自主公開研究会(11月30日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して児童の言語活動について協議する。 	<p>○ 12月に行う児童生徒交流の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画や運営等の検討 ・相手を意識したよりよい交流の在り方
	<p>根室管内小中学校生徒指導研究大会(11月21日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の取組状況や児童生徒の実態把握調査に関する情報交換を行う。 ・日本学校教育相談学会 名誉会長 中野武房 氏の講演「ピア・サポート活動の発展～協同学習への取り入れ～」を拝聴する。 	
<p>*数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(44時間)</p>		
12月	<p>○ 校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級で実施した「ほっと」の分析について交流する。 	<p>○ 児童生徒交流(12月13日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生が企画・運営する交流会に第1学年児童が参加し、触れ合う。
	<p>*数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(24時間)</p>	
1月	<p>第2回中1ギャップ検討委員連絡協議会(1月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の取組状況や数学科担当教員のTT指導等について協議する。 ・協議結果を踏まえ、今後の取組について検討する。 ・2月に開催される運営協議会での発表資料について検討する。 	
	<p>○ 運営協議会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料の作成と検討 	<p>○ 運営協議会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料の作成と検討
2月	<p>一日体験入学(2月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校第1学年の英語と理科の授業を参観する。 ・中学校生徒会が小学校第6学年児童に対し、中学校生活について説明する。 ・学習や生活のきまりなど担当者が保護者に説明する。 	
	<p>*数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(36時間)</p>	
3月	<p>*数学科担当教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるティーム・ティーチング(12時間)</p>	
	<p>小・中学校の引継ぎ(引継ぎシート及び「ほっと」データの活用)</p>	
	<p>第3回中1ギャップ検討委員連絡協議会(3月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の今年度の取組を振り返り、次年度の計画について協議する。 ・実績報告書について検討する。 	

6 事業の成果

- 小・中学校で児童生徒の共通したテーマを「学習規律」に設定することで、学びの連続性について小・中・高等学校の教職員の共通理解が図られ、中1ギャップ問題の未然防止や解消に向けた取組を推進することができた。
- 共通のアンケートを実施することで、個人と集団のコミュニケーション能力や日常生活への満足度などを9年間の育ちの中で把握し、児童生徒をより深く理解することができた。
- 小学校に数学科担当教員3名を派遣することにより、算数・数学科における児童一人一人の連続した学びが醸成され、また児童一人一人の学習課題が明確になり、学習面での中1ギャップ問題への改善につながった。

7 今後の課題

- 児童生徒の発達の段階を考えたとき、幼児期の生活習慣と密接な関係があることから、保育園や幼稚園との連携を図った新たな取組を推進していく必要がある。
- 教師が抱えている児童生徒の印象と、児童生徒自身の意識の差を校内研修等において検討し、教員間で共通理解の上、その後の指導の工夫改善に役立てる必要がある。
- 学習指導だけではなく生活指導において、小学校と中学校の共通の課題を明確にし改善を図っていく必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

○ 連続した学びの基礎となる学習のきまりの決定

児童生徒の「学習規律の共通化」について教職員の共通理解をより明確にするために、小・中・高等学校の全教員がつなぎの中心となる中学校の授業を参観し、12年間の連続した学びをテーマに、学習規律について自校の様子と比較しながら気になる点について協議を行うことは有効である。

○ 印象ではない、具体的な共通項による分析結果の引継ぎ

学級担任の印象ではなく、具体的な数値を示しながら中学校に引き継ぐために、児童生徒の集団や個人の実態把握に当たり、子ども理解支援ツール「ほっと」の13の要素及びアンケート項目を、生徒指導上の重要な観点（指標）として活用し、分析結果と実態を比較しながら情報交流することは有効である。

○ 数学科担当教員による算数の授業サポートの効果

児童の発達の段階を考えたきめ細かな学習指導による児童の学力向上と中学校の学習に対する不安を和らげるために、第4学年以上の学級で行っている「①学習規律の改善」「②個々の児童の習熟度の把握」「③算数の指導の改善」に重点をおいたティーム・ティーチングによる算数の授業は有効である。